

香曾我部義則先生 の今月のカルテ ②

慢性痛とペインクリニック

痛みを治療をより専門的に勉強した医師が、痛みを総合的に診断し治療するペインクリニック。その治療法について、梶木病院麻酔科・ペインクリニックの香曾我部義則先生が、分かりやすく説明してくれるこのコラム。第20回のカルテは、むち打ち症（外傷後頸部症候群）と、最近話題の脳脊髄液減少症（低髄液圧症候群）についてです。

一般にむち打ち症とは、椎間板や椎間関節の障害をきたす部から後頭部、肩と広い

症状は痛みや凝りを頸部から後頭部、肩と広い範囲で感じます。同じ部位にしびれを生じることがよくあります。そのた

外ブロックなどの治療法下している場合が多いため「低髄液圧症候群」とも呼ばれています。頭を上げると、起き上がるといった動作で症状が出やすくなります。脱水で悪化。点滴などで改善しやすくなります。診断にはMRIだけでなく、R1脳槽シンチなど特殊検査が必要。また治療では患者さん自身の血液を硬膜外腔に注入することもあります。このように治療法を用いる病態が「脳脊髄液減少症」です。確立されている治療法としては「ブラッドパッチ」があります。治療法で、県下では岡山大学附属病院麻酔科（ペインセンター）で治療を受けることが可能です。今回は、仙腸関節の痛みについて説明する予定です。

交通事故でのむち打ち症から頭痛、微熱、全身倦怠：脳脊髄減少症の疑いも 治療にはブラッドパッチを

力が加わり、頸部の筋肉や筋膜、靭帯（じんたい）えらわれています。

不安薬や抗うつ薬で改善しますが、症状が強い場合や慢性化する場合はトリガーポイント注射や、前回頸椎症の治療で紹介した椎間関節ブロックで

「脳脊髄液減少症」とは外傷により脳脊髄を保護している膜（硬膜外、8月27日号既述）に穴が開き、そこから髄液が漏れ、脳が引っ張られるようになります。先に述べた症状が生じるのです。このとき脳内の圧力が低

■プロフィール こうそかべ・よしのり 昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、岡山大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て平成16年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医、現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属



香曾我部義則先生

現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

レントゲン写真では特別な異常を認めないことが多く、また交通事故後などでは以前の比較が

状態神経節ブロック、硬膜外ブロックなどの治療法下している場合が多いため「低髄液圧症候群」とも呼ばれています。頭を上げると、起き上がるといった動作で症状が出やすくなります。脱水で悪化。点滴などで改善しやすくなります。診断にはMRIだけでなく、R1脳槽シンチなど特殊検査が必要。また治療では患者さん自身の血液を硬膜外腔に注入することもあります。このように治療法を用いる病態が「脳脊髄液減少症」です。確立されている治療法としては「ブラッドパッチ」があります。治療法で、県下では岡山大学附属病院麻酔科（ペインセンター）で治療を受けることが可能です。今回は、仙腸関節の痛みについて説明する予定です。

■メモ 問い合わせ先 ☎(293) 3355代 梶木病院(西花尻)